

なつめそうせき
夏目漱石

やまみち のぼ
山路を登りながら、こう考えた。
ち はたら かど た じょう さお
智に働けば角が立つ。情に棹させば
なが いじ とお きゆうくつ とかく
流される。意地を通せば窮屈だ。兎角
ひと よす
に人の世は住みにくい。

21	16	11	6	1
22	17	12	7	2
23	18	13	8	3
24	19	14	9	4
25	20	15	10	5

あんしょう
一回読んだら、○をつけよう。
◎をつけよう。

夏目漱石 なつめそうせき

住すみにくさが高こうじると、安やすい所ところへ
引ひき越こしたくなる。どこへ越こしても住す
みみにくいと悟さとった時とき、詩しが生うまれて、
画えができき出来る。

21	16	11	6	1
22	17	12	7	2
23	18	13	8	3
24	19	14	9	4
25	20	15	10	5

一回読んだら、○をつけよう。
暗唱あんしょうできたら、◎をつけよう。

なつめそうせき
夏目漱石

ひとよつく
人の世を作ったものは神でもなけ
おに
れば鬼でもない。矢張り向う三軒両
どな
隣りにちらちらする唯の人である。

21	16	11	6	1
22	17	12	7	2
23	18	13	8	3
24	19	14	9	4
25	20	15	10	5

あんしょう
一回読んだら、○をつけよう。
◎をつけよう。

夏目漱石 なつめそうせき

唯ただの人ひとが作つくった人ひとの世よが住すみにくい
からとて、越こす国くにはあるまい。あれば
人ひとでなしの国くにへ行ゆくばかりだ。人ひとでな
しくにの国ひとは人よの世すよりもなお住すみにく
かろう。

21	16	11	6	1
22	17	12	7	2
23	18	13	8	3
24	19	14	9	4
25	20	15	10	5

一回読んだら、○をつけよう。
暗唱あんしょうできたら、◎をつけよう。